

## 「授業についての満足度調査」について

本調査は、2018 年度から質問項目とその内容も大幅な刷新を図り再開に至っている。特に、教育目標に基づき、学生が各授業で身につけるべき能力(教育上の目的)や学習成果などが特筆すべき点として挙げられ、各学科の教育内容を尊重したものとなっています。

また、回答率の向上をめざし、各学科のFD委員が直接学生アンケートを実施しています。

尚、アンケート実施後の各学科長のコメントは、従来通り実施しています。

FD 委員長  
榊原 和子

## 2019年度 授業についての満足度調査

1. 調査目的 ①学科の取組について評価する  
②授業で身につけるべき能力(教育上の目的)について評価する  
③学生自身の授業への取組について評価する  
④学習成果がどの程度身についたか評価する  
以上の①～④について、学生の授業への満足度を調査することにより、個々の項目を精査し翌年度の授業改善の一助とする。
2. 実施期間 2019年12月下旬～2020年1月上旬
3. 調査回答者数 保育学科回収率 1年生96%(78人) 2年生89%(93人)  
ライフデザイン総合学科回収率 1年生100%(62人) 2年生88%(56人)
4. 調査方法 多くのデータを回収するため、無記名のアンケート用紙とし、実施は各学科のFD委員が担当
5. 結果のデータ処理 従来の両学科同じ内容の設問項目ではなく、両学科それぞれの教育内容を意識した質問項目を設定した  
ただし、ライフデザイン総合学科設問項目I以外は、“そう思う～そう思わないの”5段階評価とし、グラフ化した

### －添付資料－

- ・ アンケート用紙(原文)
- ・ アンケート用紙(回答)学科別集計結果
- ・ アンケート用紙(回答)学科別集計結果に対する各学科長講評

アンケート用紙(原文) 保育学科

短期大学 FD 委員会

授業についての満足度調査(2019年度)

回答欄の 0 を鉛筆やボールペンなどで塗りつぶしてください。[可:●,●/ 不可:○,○,○]

I 保育学科に関する各項目について、お答え下さい。

①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	「なわてジェンヌ」を目指し、教養、マナー等を身につけようと熱心に取り組んだ	(1) (2) (3) (4) (5)	●
2	「なわてジェンヌ」を目指した取り組みは、役立つことだと思う	(1) (2) (3) (4) (5)	●
3	保育技術を伸ばし、「保育のソムリエ」の称号を得るために熱心に取り組んだ	(1) (2) (3) (4) (5)	●
4	「保育のソムリエ」の称号を得ることは、役立つことだと思う	(1) (2) (3) (4) (5)	●
5	保育の座学の講義は、役に立つと思う	(1) (2) (3) (4) (5)	●
6	保育の演習・実技は、役に立つと思う	(1) (2) (3) (4) (5)	●
7	保育所や幼稚園、施設などでの実習は役に立つと思う	(1) (2) (3) (4) (5)	●

II 保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について、お答え下さい。

①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	保育や幼児教育、福祉に関する知識を理解できた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
2	保育における的確な実践力、判断力、コミュニケーション力を身につけることができた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
3	子どもの表現、遊びに関する技能や表現を身につけ、援助の方法を習得できた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
4	社会状況に関心を持ち、それに応じた保育の向上に努めることができた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
5	保育の実践者としての自覚を持ち、人間的成長や向上に努めることができた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
6	保育の近接領域を学び、保育周辺の資格の習得に努めることができた	(1) (2) (3) (4) (5)	●

III あなた自身の授業への取り組みについて、お答え下さい。

①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	授業には、欠席しないように心がけた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
2	授業中の解らないことや不明な点について、積極的に質問した	(1) (2) (3) (4) (5)	●
3	授業中の居眠りや私語などはせず、授業に集中した	(1) (2) (3) (4) (5)	●
4	授業中の勉強環境(進度、教室、板書、視聴覚教材など)について、積極的に発言した	(1) (2) (3) (4) (5)	●
5	授業の予習・復習および課題には、真剣に取り組んだ	(1) (2) (3) (4) (5)	●

IV 本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか、お答え下さい。

①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	報恩感謝の思いを持つことができましたか	(1) (2) (3) (4) (5)	●
2	教養や知性が身についたと思いますか	(1) (2) (3) (4) (5)	●
3	何事にも自主的、積極的に取り組めるようになったと思いますか	(1) (2) (3) (4) (5)	●
4	専門的能力(資格を含む)が身についたと思いますか	(1) (2) (3) (4) (5)	●
5	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身につけ、人間的にも成長できたと思いますか	(1) (2) (3) (4) (5)	●



アンケート用紙(原文) ライフデザイン総合学科

短期大学 FD 委員会

授業についての満足度調査 (2019 年度)

回答欄の 〇 を鉛筆やボールペンなどで塗りつぶしてください。[可: ●, ●/ 不可: ○, ○, ○, ○]

I ライフデザイン総合学科のエリアについて、お答え下さい。(エリアを1つマークして下さい)

- ①:心理・カウンセリング ②:ビジネス ③:IT ④:食・健康、フード ⑤:リハビリ施設、リハビリ科  
⑥:医療事務

1	授業の内容が分かりやすかったエリア	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	●
2	授業の内容に達成感や満足感を感じたエリア	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	●
3	授業を受けることで資格の獲得につながったエリア	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	●
4	授業を受けることで就職や就職活動に役立つエリア	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	●
5	授業を受けることで学習への興味・関心が広がったエリア	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	●
6	受講したい授業科目が多く開講されているエリア	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	●
7	主体的に学習に取り組むことができたエリア	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	●

II ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について、主に履修した科目からお答え下さい。

- ①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	幅広い人間性と教養を身につけることができた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
2	将来の人生設計(ライフデザイン)につながった	(1) (2) (3) (4) (5)	●
3	仕事に関するイメージを描き、自分に適した仕事を見つけることができた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
4	エリアの基礎的知識やスキルを身につけることができた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
5	エリアの専門性を深めることができた	(1) (2) (3) (4) (5)	●

III あなた自身の授業への取り組みについて、お答え下さい。

- ①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	授業には、欠席しないように心がけた	(1) (2) (3) (4) (5)	●
2	授業中の解らないことや不明な点について、積極的に質問した	(1) (2) (3) (4) (5)	●
3	授業中の居眠りや私語などはせず、授業に集中した	(1) (2) (3) (4) (5)	●
4	授業中の勉強環境(進度、教室、板書、視聴覚教材)について、積極的に発言した	(1) (2) (3) (4) (5)	●
5	授業の予習・復習および課題には、積極的に取り組んだ	(1) (2) (3) (4) (5)	●

IV あなたは、本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか、お答え下さい。

- ①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	報恩感謝の思いを持つことができましたか	(1) (2) (3) (4) (5)	●
2	教養や知性が身についたと思いますか	(1) (2) (3) (4) (5)	●
3	何事にも自主的、積極的に取り組めるようになったと思いますか	(1) (2) (3) (4) (5)	●
4	専門的能力(資格を含む)が身についたと思いますか	(1) (2) (3) (4) (5)	●
5	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身につく、人間的にも成長できたと思いますか	(1) (2) (3) (4) (5)	●

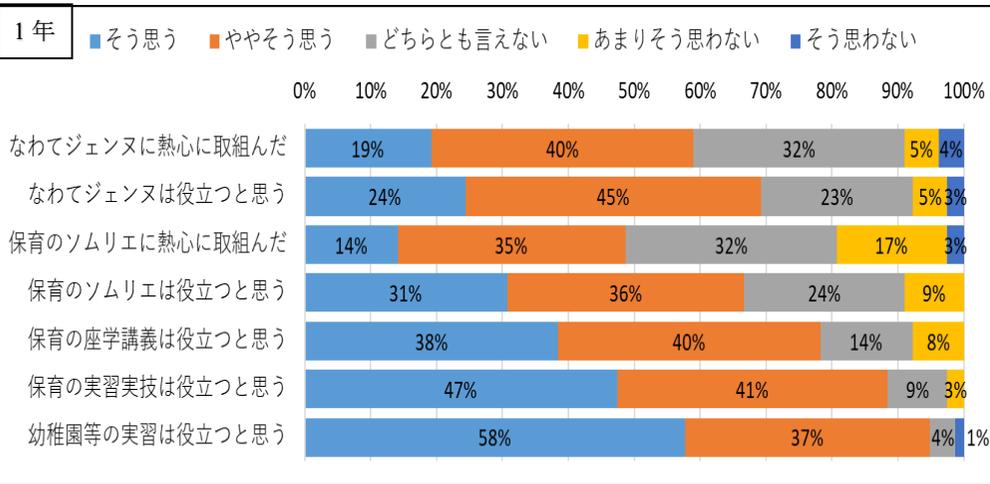


2019年度授業満足度アンケート調査用紙（回答） 保育学科 集計結果

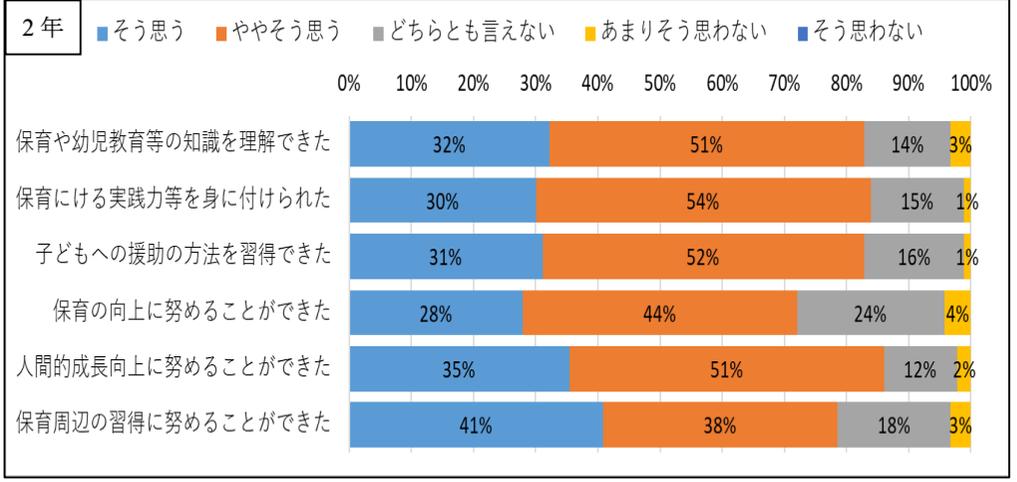
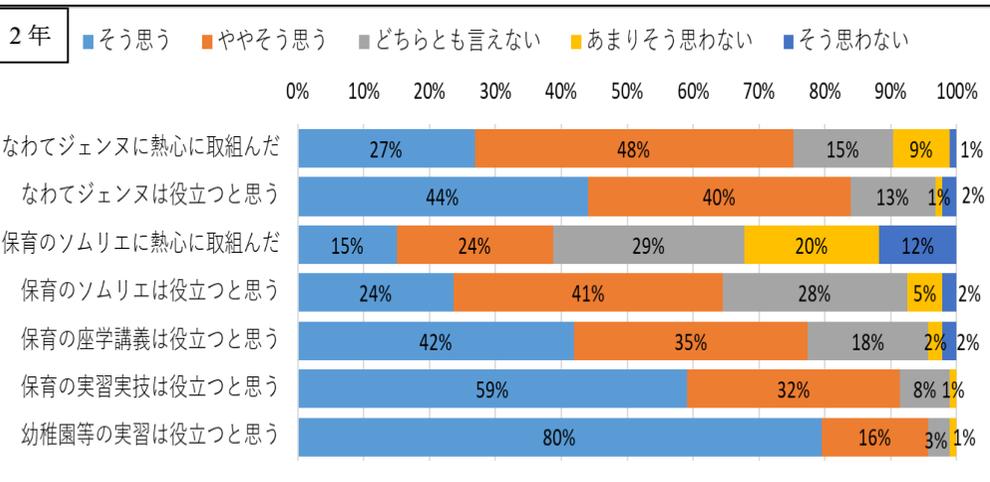
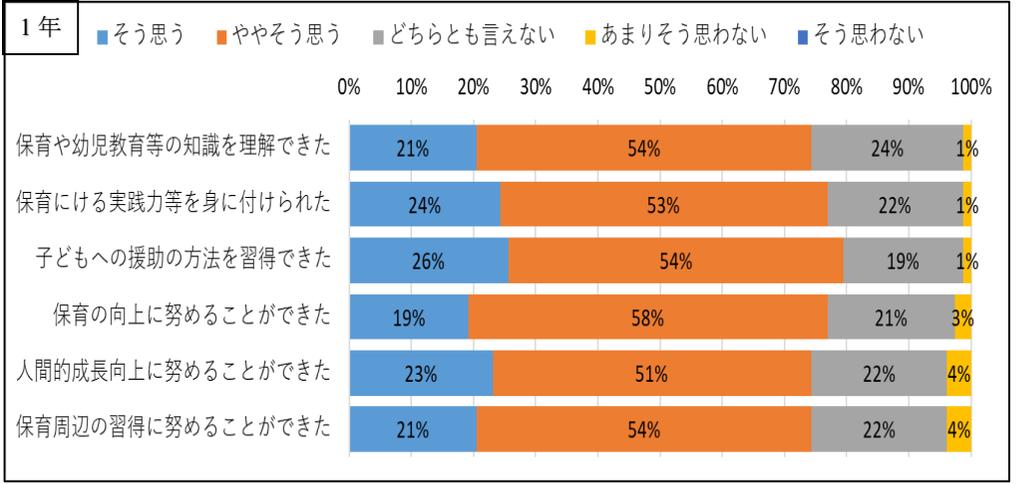
保育学科回収率 1年生 96% 2年生 89%

保育学科 1

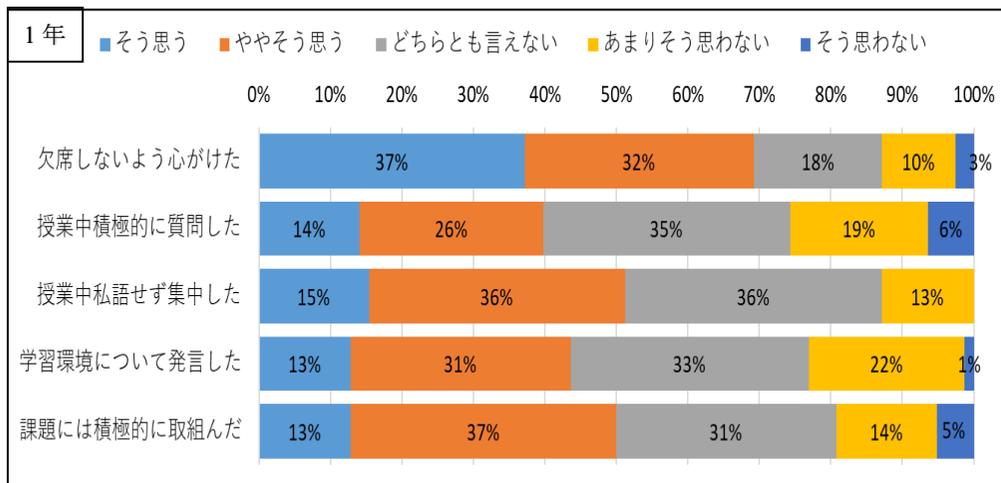
設問項目Ⅰ 保育学科に関する各項目について



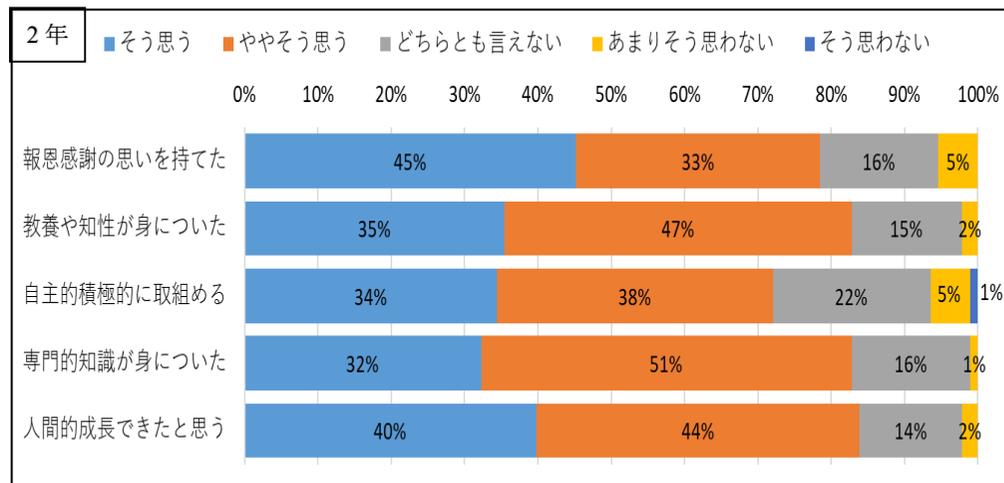
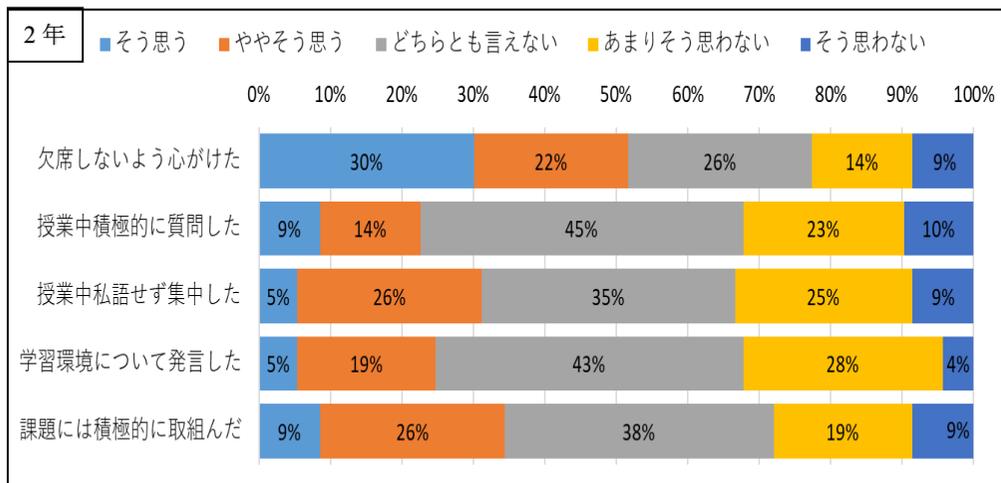
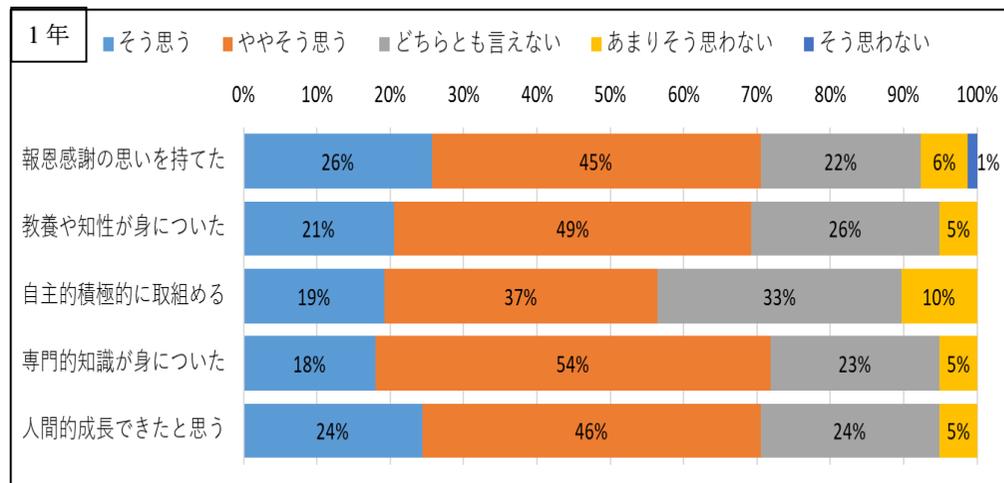
設問項目Ⅱ 保育総合学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について



設問項目Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて



設問項目Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか

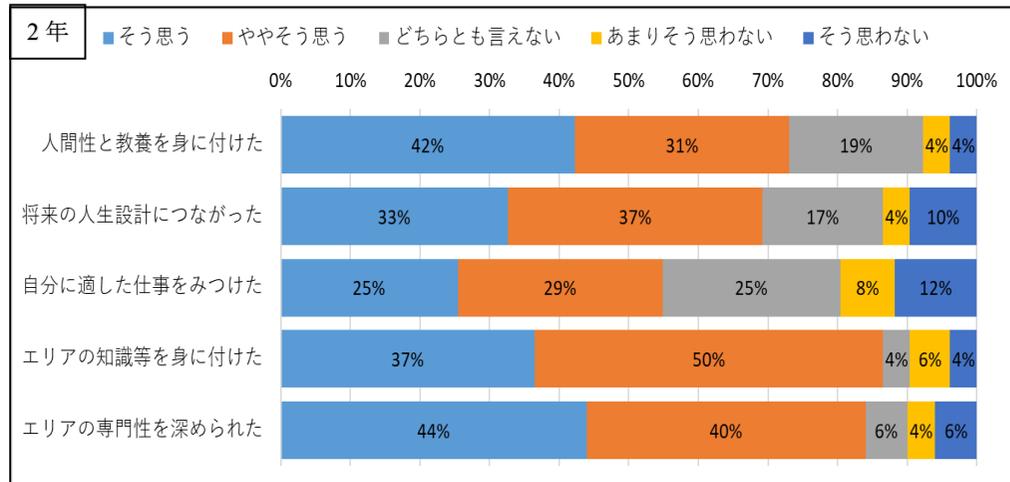
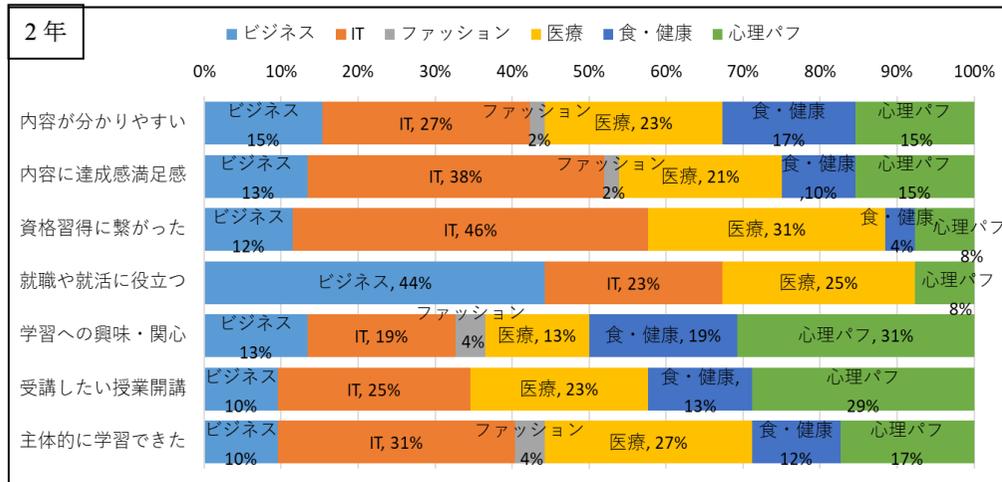
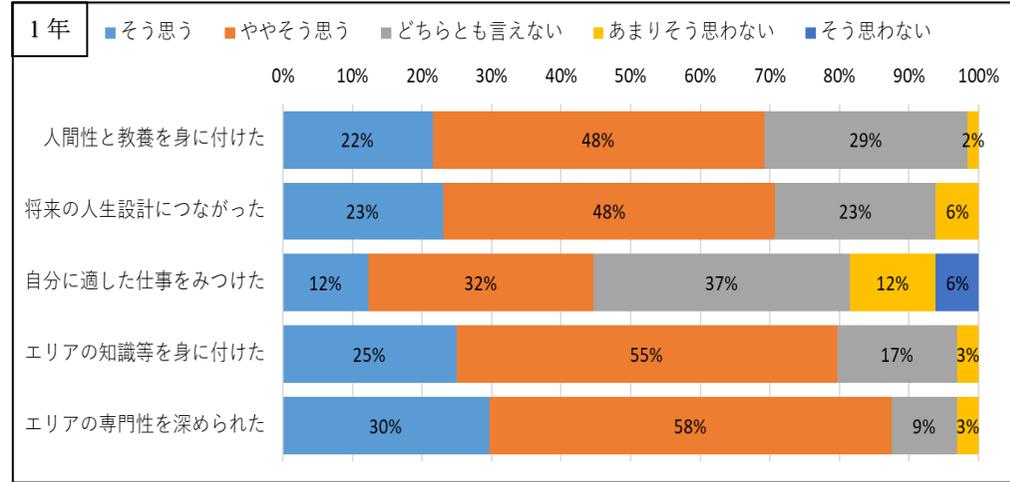
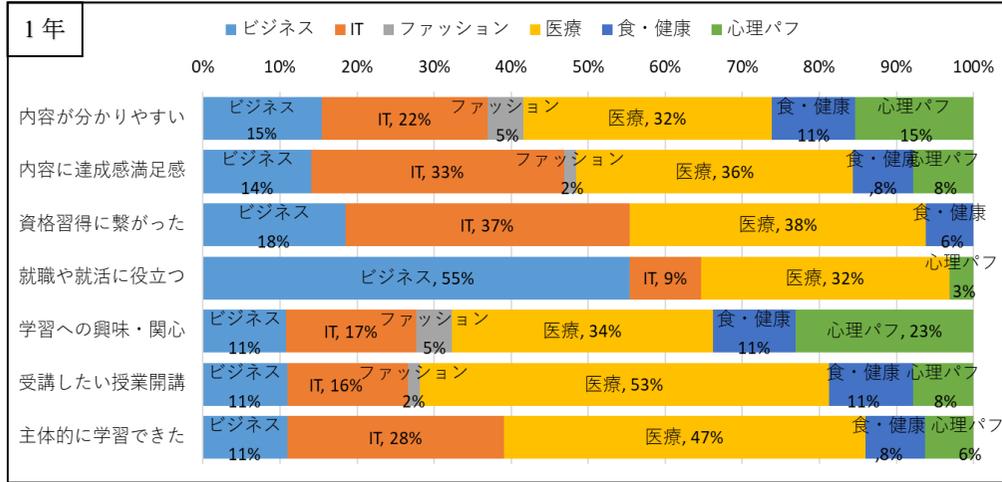


2019年度授業満足度アンケート調査 ライフデザイン総合学科 集計結果

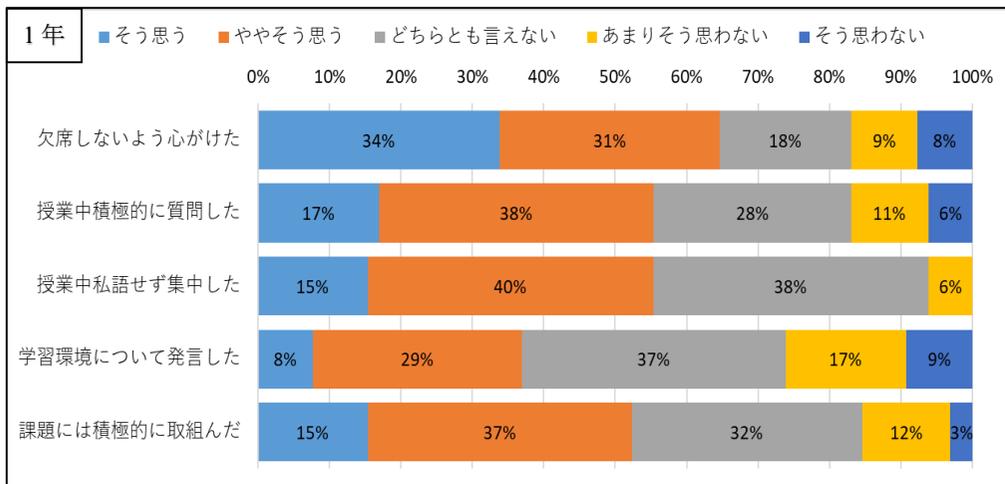
ライフデザイン総合学科回収率 1年生 100% 2年生 88%

設問項目I ライフデザイン総合学科に関する各項目について  
(エリアを1つマーク)

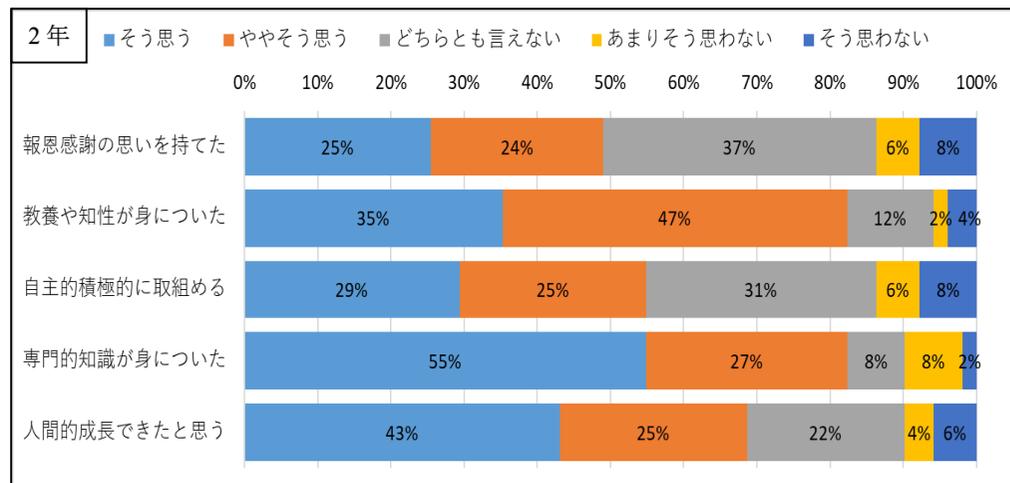
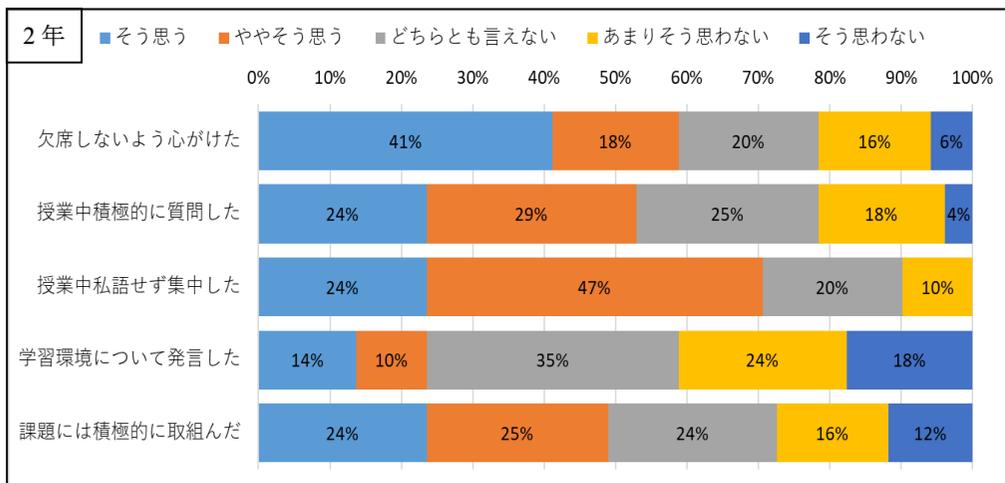
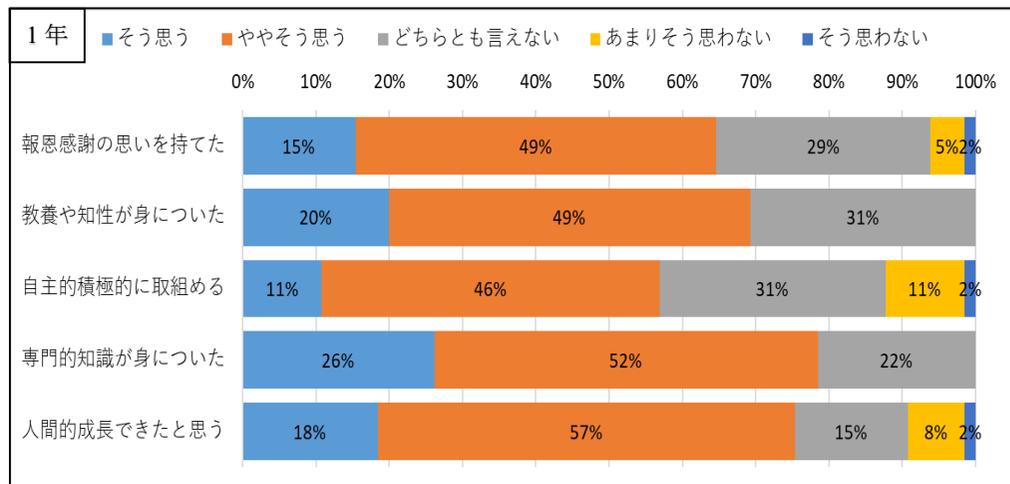
設問項目II ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で  
身につけるべき能力(教育上の目的)について



設問項目Ⅲ あなた自身の授業への取り組みについて



設問項目Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか



## 2019年度授業満足度アンケート調査結果(各学科長講評)

保育学科長：合田 誠

### 設問項目Ⅰ 保育学科に関する各項目について

今年度の全体的な傾向は1・2年生で、相違が見受けられる。

最初に保育学科のオリジナル目標として標榜している「なわてジェンヌ」については、「熱心に取り組んだ」及び「役立つと思う」の項目で、2年生が「そう思う」、「ややそう思う」と回答しているのが全体の75%に対して、1年生は59%と15ポイントも低い。この差異の最大の理由としては、2年生は10年以上取り組んできた課外授業の「ステージアップセミナー」の最後の学年となり、1年生は「ステージアップセミナー」に代わる「キャリアと教養」にシフトしたことが大きく影響したためと考えられる。「ステージアップセミナー」は年間を通じてクラス担任を通じて「なわてジェンヌ」を事ある毎に意識付けをさせてきた効果としての結果であり、一方で1年生は次に述べる「保育ソムリエ」にウエイトをかけたための結果であるといえる。

次に保育のソムリエに関しては、「なわてジェンヌ」の傾向とは逆の結果を示している。「熱心に取り組んだか」の問いについて2年生は「そう思う」、「ややそう思う」の合計は39%であるのに対して1年生は49%と10ポイント以上高い。この理由としては、前述した様に、「ステージアップセミナー」で行っていた「保育のソムリエ」は特定の教員だけの働きのため浸透していないとの反省から、今年度の1年生から、保育学科全教員が各ソムリエに所属して取り組んだ結果といえる。

「なわてジェンヌ」、「保育のソムリエ」に関しては本学独自の取り組みであるので、車の両輪のように双方がバランスよく学生に浸透させるための視点を持って、次年度以降取り組んでいきたい。

学習形態に関する設問は、昨年と同様に1・2年生とも「実習」に関しては9割以上の学生がその必要性を痛感している。このことは、学内での学び以上に保育現場での体験学習の効果が高い証である。半面、学内学習の中で「座学」の「必要性」は1・2年生ともに「実習」と比較して7割に減少している。しかしながら「実技」授業に関しては9割前後まで盛り返している。実習内容を充実させるためには、専門知識を身に付ける「座学」も必要であるのはいまでもないが、学生がその認識を高めてもらうには授業内容の改善を図る姿勢が常に教員には求められている。

### 設問項目Ⅱ 保育学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について

これも1・2年生がほぼ同様の傾向にあるが、厳密には全体的に身に付けるべき能力を得たとするのは2年生が高い。もっとも数値に差異があるのは「人間的に成長向上に努めることができた」の設問で、「そう思う」、「ややそう思う」の合計で2年生が86%であるのに対して、1年生は74%となっている。さらに各設問で「そう思う」と答えた割合が「保育の向上に努めた」以外で2年生は30%を超えているが、1年生は30%を超えているものはない。この差異の理由として考えられるのが学習期間の長短と年齢的成長がその背景にあるのではないかと考える。

### 設問項目Ⅲ あなた自身の授業への取り組みについて

まず、全体的に授業への取り組みについて1・2年生に差異が認められる。数値的に最も違う設問は「授業中私語せず集中した」と「学習環境について発言した」である。それぞれ1年生は「そう思う」、「ややそう思う」の合計は51%、44%であるのに対して、2年生は31%、24%と20ポイントの開きがある。その他の設問にしても同様に「欠席しないように心がけた」が1年生は69%、2年生は52%、「授業中積極的に質問した」は1年生が40%、2年生が23%、「課題には積極的に取り組んだ」が1年生は50%、2年生が35%となっている。加えて、2年生は、「授業中積極的に質問した」、「授業中私語せず集中した」、「学習環境について発言した」の3項目は「あまりそう思わない」、「そう思わない」の合計が「そう思う」、「ややそう思う」の合計を上回っている。

この様に各設問の差異が20ポイント前後生じたり、「授業中に積極的に質問した」、「授業中私語せず集中した」、「学習環境について発言した」が「不満」となっている理由として考えられるのが2つある。ひとつ目は、設問項目Ⅱとは逆に1年生は授業業に対して「熱心」に取り組もうとする意識は高いが、2年生はその意欲が低下している。2年生は学習が最終段階に入り、「ゴール」が見え、就職も決まり、気持ちに緩みが出ているためではないかと考えられる。次に調査の実施時期にも関連しているのではないかと考える。ひとつ目の理由とリンクするが、実施時期がどうしても年度の終盤になるため、2年生が授業に取り組むモチベーションの低下が避けられない。

さらに1・2年生共通に留意しなければならない点がある。それはすべての設問に対して3割前後の学生が「どちらとも言えない」を選択していることである。この回答をした学生は、前向きに授業を捉えてくれたならば、「満足」する層に移る可能性があるが、何らかのきっかけ等があれば、「不満」に流れ込む可能性を孕んでいるといえる。

### 設問項目Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか

1・2年生とも学習成果に関してすべての設問は高い率を示している。特に2年生に関しては全設問の7割以上が「そう思う」、「ややそう思う」を選択している。もっとも数値的に高いのが「人間的に成長できた」(84%)である。次いで「専門的知識が身についた」(83%)、「許容や知性が身についた」(82%)の順となっている。2年間という短期間の中で乗り越えていかねばならない学内学習と学外実習をクリアすることを通じて、個々の学生がそれをプラスとして身に付けたという結果は大変有り難い。ただ、本学の「建学の精神」である「報恩感謝」については例年と比べて若干数値が低下しているのが気がかりではあるが、78%の学生は「人間的成長」のなかにこの気持ちを包含しているものと理解している。

1年生に関しては「そう思う」、「ややそう思う」の合計は2年生と比較して各すべての設問に関して数値は劣るが、次年度に向けては教員側もこの状況を把握して授業等に取り組んでいきたい。とりわけ「自主的積極的に取り組める」は1年生の満足度が低いため、文科省が提唱する「主体的・対話的で深い学びを考える」と合致する項目であるため、教員の最重要課題である。

## ライフデザイン総合学科長：工藤 真由美

### 設問項目Ⅰ ライフデザイン総合学科に関する各項目について(エリアを1つマーク)

内容がわかりやすいエリアに関しては医療が1、2年通して充実している。達成感・満足感があるのは、IT エリアで、できるようになったことが目で見えやすいからだと感じる。特に2年生に上がるにつれてその割合が増加している。スキルは積み重ねることで上がるのがこの結果からも証明されている。また食・健康の開講科目数は2年次に増加するので各項目で2年次の評価が伸びているという特徴がある。就職に役立つは断然ビジネスと医療事務なので、1、2年ともにダントツである。しかし、わかりやすさや達成感はビジネスは思うほど高くない。ビジネスエリアの授業の進め方にひと工夫が求められるのではないかと思う。学習の興味関心、受講したい授業開講では心理学が伸びている。短大のわりに科目数も充実しているということにひかれて入学してきた学生の満足に寄与していると思われる。

### 設問項目Ⅱ ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について

すべての項目で1、2年生とも60%以上がそう思う、ややそう思うとなっているが、2年生に関して「自分に適した仕事を見つけた」が44%にとどまっている。これは希望の仕事につながらなかったのか、理由はさらに調べないと不明である。50%を超えてもいいのではとも思う。今後検討したい。

### 設問項目Ⅲ あなた自身の授業への取り組みについて

1、2年生ともに60%以上がそう思う、ややそう思うに解答し、積極的な姿勢を授業に向けていたと回答している。しかし学習環境に関しての発言はいずれも30%に満たない。質問の趣旨が理解できないのか、実際に発言しないのかはわからないが、具体的な質問の内容が理解できる文言のほうがいいのではとも思う。

### 設問項目Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で学習成果がどの程度身についたか

1年生、2年生ともに質問項目で「そう思う」が多く喜ばしいことである。特にすべての項目で70%~90%近くが、そう思う、ややそう思うになっていて、教育目標が身についたと自己評価(満足)が示されていると思われる。さらに自分に適した仕事が見つけれられたの項目で、90%以上になるように働きかけていくのが今後の課題である。